（1）　（明治25年3月28日第3種郵便物認可）　THE JOMO　（日刊）

参院選あす公示

群馬選挙区　7人が出馬予定

参院選公示を前に、選挙運動の準備をする県選管職員＝県庁

参院選はあす五日公示され、二十三日の投票日に向けて十八日間の選挙戦のスタートを切る。群馬選挙区は改選一の定数1議席に対し、自民党推薦の一人と新人五人の計六人が出馬を予定、かつてない激戦となる。リクルート、消費税など逆風に乗って社会大躍進したが、各陣営は「民」の風向きが議席を左右するかが最大の焦点。参選議員引き締めを図る（自民党）、「既存政党に愛想つかされた」（社会党）、組織の力を発揮する（共産党）、「本番」直前の態勢固めに奔走、本格的な選挙戦に突入する。

群馬選挙区で出馬を予定している候補者は、自民現、取（前橋市長）、角田（衆議院議員）氏と社会党、小野寺慶吾（元衆議院議員）氏、共産党、駒井孝氏（元市議）、無所属の五人で、上村勝男（元参議院議員）、梅沢道喜氏（元無所属）の二人が、自民党の公認を目指している。

各陣営とも五日の公示に向け準備に大わらわだが、社会党が「政党の地盤変動が激しいこなか、しかも低い組織で進撃の六十四所所属議員が一斉に始まり、午後一時前には総定数三百六十二の全議席が決まった。自民党は改選前議席を二十減らす四十三議席と惨敗し、昭和二十年の普選実施以来、初の社会党の躍進となった。社会党は公認一十九人、推薦七人が当選し、改選前議席（公認十二、推薦一）の三倍にする大勝利。公明党が二議席、共産党が五議席を確保し、社会党は公明、共産両党を抜いて最大会派第一党に進出した。（関連記事2、3面）

民社党は推薦一人を含む三議席上積みした。初排戦の連続で、「自民党は強敗の一歩いい状況」（加藤幹事長）、「自民党は強敗の一歩いい状況」（加藤幹事長）、「自民党は強敗の一歩いい状況」（加藤幹事長）